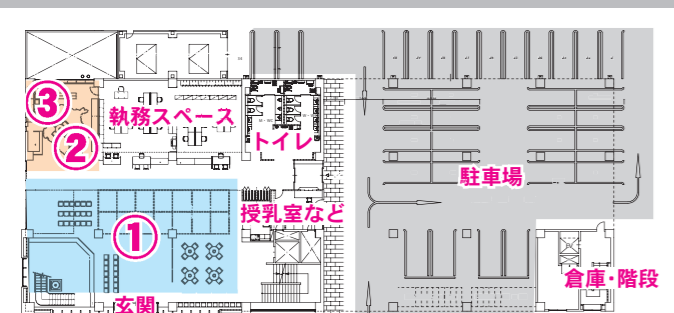




1階

- ①多目的市民ホール_吹き抜けで開放感あるホールには、イベントステージや遠野テレビのミニスタジオ、ラウンジスペースなどを設置。イベントなどでも活用できるスペースとして設計しました
- ②遠野物語ホール_遠野をかたどった天井が特徴的。喫茶スペースなどとして活用します
- ③まちなか図書館_②の隣に図書や学習機を設置し、気軽に立ち寄れる場とします

木の香りが漂うエントランスホールで、市民が気軽に集い、憩う場にー。

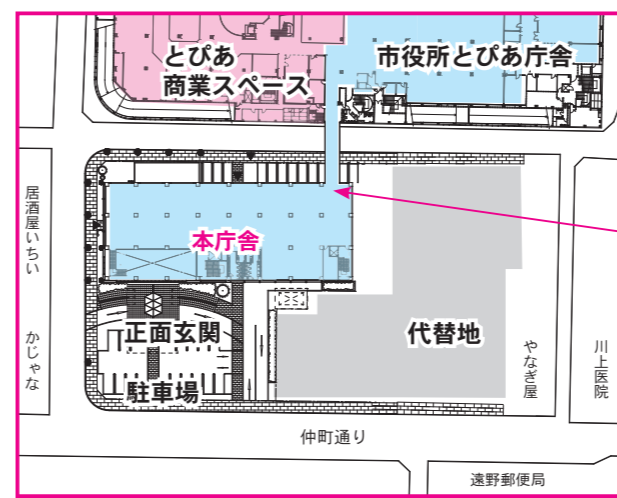


特集

～中心市街地再開発プロジェクトとして整備～

おらほの本庁舎

中心市街地再開発プロジェクトとして、市役所本庁舎をとびあ南側に新築します。
このたび、市民との話し合いを経て、基本設計がまとまりました。
利便性向上と中心市街地活性化を図るため、「とびあとの複合施設」として整備する計画です。
おらほの本庁舎の概要について、お知らせします。



◎設計概要
構造…鉄筋コンクリート造(木質化)、地下1階、地上3階
延べ床面積…5,235平方メートル
総事業費…約30億円(うち建築工事費約18億円)
※震災復興特別交付税などの国の財政支援は19億円



中心市街地のシンボル
市はこれまで、▽市内に分散している庁舎機能を集約すること▽市民と一緒に庁舎づくりを進めることーの2つを目標とし、市民の皆さんの意見を聴きながら、約1年かけて基本設計を行ってきました。
設計コンセプトは、▽中心市街地活性化の核となる庁舎▽市民の利便性の向上を目指した庁舎▽市民に親しまれ、開かれた庁舎▽環境に優しく防災機能を備えた庁舎ーの4つ。つまり、まちを元気にし、市民のよりどころとなり、「おらほの本庁舎」と親しみを持ってもらえるような、中心市街地のシンボルを目指しています。
構造は、鉄筋コンクリート造の地下1階地上3階建てで、延

遠野らしい、瓦屋根と伝統木組の正面玄関一。



外観で目を引くのは、瓦屋根の正面玄関。遠野産材を印象的に活用し、遠野が林業のまちであることをPRします。また、社寺建築に用いる伝統木組を採用し、遠野の伝統技術の伝承を表現。伝統と新しさが融合するデザインは、遠野の街並みと調和します。

べ床面積は5,235平方メートル。遠野産木材を随所に使い、木のぬくもりを感じる空間を創出します。主要熱源には、木質バイオマスボイラーを採用。最大72時間供給が可能な非常用電源設備も整備し、有事に備えます。
総事業費は約30億円。とびあ庁舎を継続使用することで経費を節約し、震災復興特別交付税など国からの支援も受け、財政負担の軽減を図る計画です。
基本設計の特徴はコレ!
本庁舎の顔となる正面玄関には、瓦屋根と木を使ったひさしと回廊を設置。街並みと調和するデザインで、遠野らしさを創出します。1階には、多目的市民ホール、まちなか図書館、イベントステージなどを設置。本

外観

南西から見たイメージ

ワークショップ
WSメンバーの声



「遠野のまちづくりを考える市民ワークショップ」のメンバーは、高校生4人を含む市民20人。メンバーは計7回にわたり、本庁舎整備や今後のまちづくりについてアイデアを出し合いました。本号では、メンバー3人から基本設計の感想を聞きました。



本庁舎から元気なまちを

単なる行政施設ではなく、市民の交流や防災、まちづくりの拠点ともなる機能が盛り込まれ、本当に良い基本設計だと思います。市民の利便性も、ぐっと良くなるのではないのでしょうか。本庁舎整備をきっかけに、まちが元気になることを期待します。



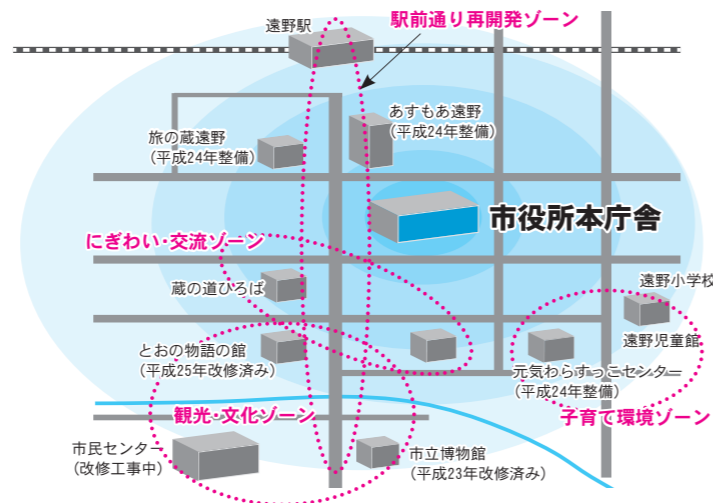
立ち寄りたくなる庁舎

和を取り入れた外観や、遠野産木材を使用した空間は、どれもステキ。憩いの場もあり、ふらっと立ち寄りたくなる庁舎だと思います。会議室やフレキシブル執務スペースを、市民が気兼ねなく使えるような仕組みづくりもお願いします。



若者が集える場所に

まちなか図書館は、学生にとってうれしい場所。バスや電車を待つ間に、勉強したり、友だちと話したりできるので、絶対に良いと思います。1階のホールでイベントやライブを企画すれば、若者たちの交流の場にもなると思います。



中心市街地活性化の中核として、平成29年3月、完成予定一。

庁舎が、行政だけでなく、市民の交流の拠点となるように設計しました。とぴあ庁舎と渡り廊下で接続する2階は、主に執務スペース。全体を見渡せるオーブンフロアにします。また、フレキシブル執務スペースも用意し、市民協働によるまちづくりに取り組みます。3階は主に議場と会議室を設置。多目的の大会議室には、市総合防災センターと連動した災害映像表示システムを導入し、有事に備えます。全階に多目的トイレを設置するほか、エレベーターも設置する予定です。子どもやお年寄り、障がい者などにも配慮しました。

また、整備後は市内に分散している議会や産業振興部、農林畜産部、環境整備部を集約し、市民の利便性を高めます。

市民の声を反映

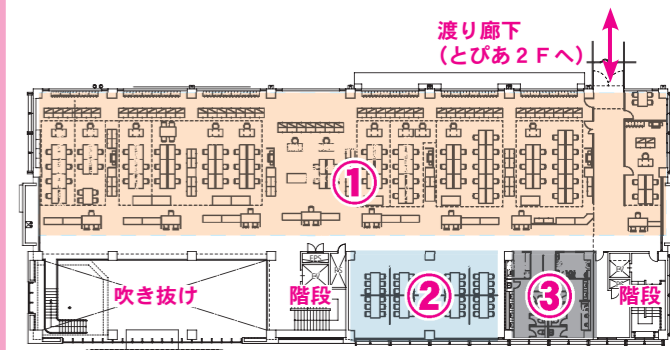
基本設計には、市職員の意見だけでなく、遠野のまちづくりを考える市民ワークショップや本庁舎整備合同打ち合わせ会議、市長と語るう会などを通じて頂いた、市民の皆さんからの意見も反映されています。この基本設計をもとに、さらに実施設計を行ない、来年1月に着工する予定です。

プロジェクト、始動！

市は、本庁舎整備を中心市街地再開発プロジェクトの一環として位置付けています(上図)。本庁舎を核に▽駅前通り再開発▽にぎわい交流▽観光・文化▽子育て環境の4つのゾーンを形成。まちなかの魅力を高め、人口減少や産業の衰退に歯止めをかけた考えです。「まちなか」が元気になれば、遠野はもっと元気になるはず。いよいよ本格化した、「おらほの本庁舎」の整備。平成29年3月に完成し、6月上旬に供用開始する予定です。



①オープンな執務スペース…全体を見渡すことができる空間にし、分かりやすく便利な窓口をつくります ②フレキシブル執務スペース…臨機応変に配置を替えられる空間を設け、市民や地域団体なども使用できる執務スペースです



③バリアフリートイレ…高齢者と障がい者にも優しい多目的トイレを全階に設置し、市民の利便性を高めます

2階

とぴあ庁舎と渡り廊下で接続。フラットな空間で住民サービスを提供。



地下には、書庫や倉庫を設けるほか、たかむろ水光園にも導入している、木質バイオマスボイラー(上図)を2機設置します。このボイラーは、木材加工時に出る未利用材や、森林の手入れの際に出る間伐材や枝葉などをチップ化したものが燃料。環境に優しく、林業の活性化も期待できるこのボイラーで、館内の冷暖房を行います。

地下
遠野の森林エネルギーを活用。



①議場…車椅子のままだでも入場できる傍聴スペースを設置し利便性を向上 ②多目的の大会議室…利用人数・目的に応じて調整できる可動式間仕切りを設置し、使い勝手を向上。最大250人収容することも可能で、イベントや災害対応など、さまざまな場面で活用することを想定しています



市民に開かれた議場を整備。多目的利用を見据えた大会議室も。

